『汐製菓会社の新作 108 せんべい 3』

第一幕：奇抜な会議室

（舞台は汐製菓会社の会議室。壁に「お菓子で世界を元気に！」というモットーが掲げられている。社長の汐がスライドを操作しながら社員たちにプレゼン中）

汐：（情熱的に）
「いいか、みんな！今回の新作のテーマはこれだ！」

（スライドにド派手な文字で「新しい和洋折衷！苺ジャム煎餅！」と表示される）

社員A：（ぽかんと口を開ける）
「えっ…社長、それはつまり、ジャムを煎餅に？」

塩田：（冷静に）

「社長、それって本気ですか？ジャムと煎餅、どちらも主役級ですよ。どちらかが負ける可能性が…」

汐：（笑いながら）

「いやいや、塩田君、負けるなんて考え方が古い！主役級が二つ合わされば、新しいスターが生まれるんだ！」

社員B：（控えめに手を挙げる）

「それで、そのジャム煎餅のターゲット層は…？」

汐：（即答して）

「全世界だ！」

社員一同：（一瞬沈黙した後、ざわつく）

「全世界って…えっ？」

塩田：（ため息をつきながら）

「また社長の大風呂敷が広がってきましたね…」

第２幕：試作の苦難

（場面は汐製菓の製造工場。職人たちが苦戦しながら試作を繰り返している）

社員C：（苺ジャムを煎餅に塗りながら）

「塗ったそばからジャムが溶けて流れるぞ！」

社員D：（煎餅を高く掲げながら）

「そもそも、これジャムの味が強すぎて煎餅が消える…！」

汐：（真剣な顔で）

「ならば、煎餅をジャムに負けないくらい香ばしく焼くんだ！」

塩田：（工場の隅で頭を抱えながら）
「社長、そんな簡単に言わないでください…。焼き加減一つで味が台無しになるんですよ？」

汐：（ひらめいた顔で）
「逆だ！煎餅とジャム、両方が強すぎるなら、第三の味を加えよう！塩だ！」

社員たち：（一斉に止める）
「それは違う気がします！」

（試作は難航するが、塩田の助言で苺ジャムにバニラ風味を加えたことでバランスが取れる。ついに試作品完成！）

汐：（感極まって）
「これだ！これが俺たちの『ジャム煎餅』だ！」

塩田：（半ばあきれつつも微笑む）

「…これが本当に売れるなら、私も信じますよ」

第3幕：試食会のカオス

（豪華なホテルの宴会場が舞台。照明は暖かいゴールド、テーブルには綺麗に並べられた苺ジャム煎餅。国内外のメディアやゲストが参加している。汐製菓のロゴが中央に輝く舞台装置が設置されている）

場面 3-1：試食会スタート

司会者：（きらびやかな声で）

「皆さま、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます！これより、汐製菓が誇る新作『苺ジャム煎餅』の試食会を開始いたします！」

（拍手が響く中、社長の汐が舞台に登壇する）

汐：（大げさに手を広げながら）

「ようこそ！ようこそ！汐製菓の新しい挑戦を目撃する記念すべき日です！」

（スライドに「新しい和洋の時代へ！」という文字が映し出される）

汐：（熱弁をふるいながら）

「この煎餅は、私たち日本の伝統的な和菓子と、西洋のスイーツ文化を融合させた革命的な一品！ただ食べるだけではありません。世界をつなげる架け橋なのです！」

塩田：（舞台袖から小声で）

「社長、話が壮大すぎますよ…ただのお菓子ですってば…」

汐：（無視して）

「それでは早速、お試しください！」

（スタッフがゲストたちに試食用の苺ジャム煎餅を配り始める）

場面 3-2：ゲストたちの反応

（ゲストたちが一口食べると、会場に様々な反応が溢れ出す）

日本人ゲスト A：（真顔から急に笑顔に）「ん？…おお、意外にイケるじゃないか！甘じょっぱくて、紅茶にも合いそうだな！」

イタリア人ゲスト：（感激の表情）「マーヴェラス！このジャムの酸味と煎餅の香ばしさ、まるでイタリアのビスコッティのようだ！」

フランス人ゲスト：（ワイングラスを手に取りながら）「これを少し砕いてチーズに乗せたら、アペリティフとして完璧だ。ワインにも合う！」

アメリカ人ゲスト：（陽気に）

「うちの子どもたちにこれを朝ごはんにしたい！トーストの代わりになる！」

韓国人ゲスト：

「塩味が効いてるから、キムチと一緒に食べてもいい感じだと思う！」

塩田：（困惑しながら）

「まさか、ここでキムチ案が出るとは…」

汐：（大笑いして）

「ほら、塩田君！和洋折衷どころか、世界折衷だ！」

場面 3-3：ユニークな食べ方の提案

（ゲストたちが勝手に新しい食べ方を提案し始める）

タイ人ゲスト：
「これ、ココナッツミルクをかけたらどうかな？デザートとして素晴らしいと思う！」

ブラジル人ゲスト：
「ブラジルの濃いコーヒーと一緒に楽しむのもいいですね。カフェ文化にピッタリだ！」

日本人ゲスト B：（考え込んで）
「これ、お茶漬けのトッピングにしたら新しい食感が楽しめるかも？」

インド人ゲスト：
「カレーのサイドディッシュとして提供するのも面白いですね。スパイシーさと甘さの組み合わせはインド人が大好きです！」

場面 3-4：最高潮の盛り上がり

司会者：（感激の声で）
「皆さま、本当にたくさんのご感想ありがと

うございます！この『苺ジャム煎餅』、こんなに多様な楽しみ方があるとは…！」

塩田：（ため息をつきながら微笑む）

「社長の無茶なアイデアが、まさかここまで受け入れられるとは…」

汐：（感慨深げに）

「塩田君、これが汐製菓の真骨頂だよ。食べる人それぞれが、新しい楽しみ方を見つけられるお菓子だ！」

司会者：

「それでは、最後に皆さまからの総評をお聞きしたいと思います！」

フランス人ゲスト：

「これはアートです。次のパリ展示会で紹介したい！」

アメリカ人ゲスト：
「朝食革命だ！パンの文化に風穴を開ける可能性がある！」

イタリア人ゲスト：
「日本とイタリアの新しい文化交流の形として広めたいね！」

（会場に大きな拍手と笑い声が響く。汐が満面の笑みで舞台中央に立つ）

汐：
「皆さん、ありがとう！この『苺ジャム煎餅』が、世界中で新しい食の楽しみを届けることを願っています！」

（汐のスピーチを背景に、ライトが会場全体を照らし、華やかな雰囲気で幕が閉じる）

第４幕：社長室でのカオスな祝賀会

（場面は汐製菓本社の社長室。シンプルながらもセンスの良い内装で、大きなデスクには書類と試作品の煎餅が散らばっている。塩田がパソコンの前に座り、SNSでの反響を必死にチェックしている。汐は社長椅子に座り、両手を組みながら満足げに笑っている）

場面 4-1：SNSでの爆発的反響

塩田：（モニターを食い入るように見つめながら）

「社長…これ、凄いことになってますよ！」

汐：（得意げに）

「だろう？言っただろう、これは世界を変えるって！」

塩田：（指差しながら）

「#苺ジャム煎餅のハッシュタグ、もう100万件超えました！動画もバズってます！」

（スクリーンにSNSの投稿が映し出される）

- **日本の学生の投稿**：「友達と食べてみた！甘じょっぱさがクセになる～！#ジャム煎餅」
- **海外インフルエンサーの投稿**：「Is this the new trend? Sweet and savory in perfect harmony! #StrawberrySenbei」
- **タイの人気屋台の投稿**：「苺ジャム煎餅にココナッツソースをかけて売ってみた！完売！」

塩田：（驚きながら）
「国内だけじゃなくて、海外でもこんなに反響があるなんて…」

汐：（椅子を回しながら）
「うむ、これはつまり、我々の煎餅が“世界語”になったってことだ！」

塩田：（呆れながら）

「社長、それは言葉の意味が違います…」

場面 4-2：各国からの問い合わせ

（電話が次々と鳴り始める。塩田が忙しく対応する）

塩田：（電話を取りながら）

「はい、汐製菓です。えっ、パリの高級レストランで正式にメニューに載せたい？…はい、検討します！」

（別の電話が鳴る）

塩田：（急いで出る）

「はい、汐製菓です。えっ、ニューヨークのカフェチェーンから正式に仕入れたいと？…はい、確認します！」

（さらに別の電話が鳴る）

塩田：（テンパり気味に）
「ちょっと待ってください、今対応中です！」

汐：（余裕たっぷりに）
「ほら見ろ、俺たちの煎餅が世界を席巻している証拠だ！」

塩田：（電話を抱えながら）
「社長、少しは手伝ってくださいよ！こんなに問い合わせが来るなんて、予想以上です！」

汐：（笑いながら）
「塩田君、これが“世界的ヒット”というものだよ。受け入れたまえ！」

場面 4-3：スタッフたちの乱入

（突然、社員たちが社長室に駆け込んでくる。手には苺ジャム煎餅を持っている）

社員A：（興奮気味に）

「社長！工場の生産が追いつかないくらいの注文が来てます！」

社員B：（タブレットを見せながら）

「見てください！SNSで“朝食に最適”ってレビューが大流行してます！」

社員C：（苺ジャム煎餅をかじりながら）

「あとこれ、俺たちの昼食にも最高です！」

汐：（立ち上がって）

「ははは！いいぞ、もっと言え！これこそ俺たちの成果だ！」

場面 4-4：次の展望へ

（室内の喧騒が落ち着き、汐が満足げに座り直す。塩田は大量のメモを取っている）

塩田：（冷静になりながら）

「…で、社長、これからどうしますか？この苺ジャム煎餅、もっと広げていくなら戦略が必要です。」

汐：（目を輝かせて）

「次は商品展開だ！“ジャム煎餅シリーズ”を作るぞ！」

塩田：（警戒心たっぷりに）

「シリーズ…ですか？」

汐：（熱弁しながら）

「例えばブルーベリージャム煎餅！マンゴージャム煎餅！世界中のフルーツと煎餅を融合させるんだ！」

塩田：（再びため息）

「また大風呂敷ですね…。でも、今回成功したから何も言えない…」

汐：（ニヤリと笑って）

「そうだろ？俺についてきなさい、塩田君。世界中のお菓子棚を埋め尽くすまで止まらない！」

場面 4-5：終幕に向けて

（汐と塩田が未来の計画を語り合う中、社長室の窓の外に夕日が差し込む。BGMが流れ始め、舞台の照明が徐々に暗転していく）

塩田：（苦笑しながら）

「…社長、本当に次も成功する保証なんてありませんよ？」

汐：（自信満々に）

「保証なんて必要ない！面白いことをやる、それが俺の信条だ！」

（暗転し、「#汐製菓」のロゴが浮かび上がる）

完